

【全学共通教育センター・人間科学教育科目】令和7年度 FD 活動の「年間計画」

1. 今年度の取り組み（前年度の「FD 年間報告書」から修正）

令和6年度は、令和7年度より実施する人間科学教育カリキュラムの再編準備作業を行った。具体的には、以下のとおりである。

- ① 各学部における履修規定の確定
- ② カリキュラム編成に伴う科目名称の変更などの調整作業

令和7年度は、「データ・AI と社会」の関連プログラム（令和4年度から実施）及び「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」など応用基礎レベル（令和6年度から実施）において履修者数・教育効果等の検証を引き続き行う。

また、教養教育全体においては、「文理融合」を前提に、分野横断教育を基盤とした、新たなカリキュラムを令和7年度より実施するので、既存科目を検証するとともに、時代の要請に応える新設科目の導入を視野に入れ、人間科学教育カリキュラムの実施体制を整備していく予定である。

課題となるのは、オンデマンド授業の導入に伴う履修者数の上限設定緩和の検討と、学習成果実感調査の回答率を向上させ、学生自身の達成度評価をもとに学修者本位の教育を実現していく方策の検討である。

2. 「1」を踏まえて、今年度の重点テーマ・目的・期待する効果等についてお書きください。

(1) テーマ：令和7年度の人間科学教育カリキュラムのさらなる検討。

(2) 目 的：文理融合教育・分野横断教育を基盤としたカリキュラムの実施

令和5年度から開始したカリキュラムの再編作業は、令和7年度実施をもって完了したものではない。既存科目を再配置した14のテーマを含め、全学部の支援をもとに、人間科学教育カリキュラムの検討を継続する。

(3) 期待する効果：各学部の支援を基盤とする人間科学教育カリキュラムの重要性が全学的な共通認識として周知徹底されること、学習成果実感調査の回答率向上によって、学生自身の達成度評価をもとにした学修者本位の教育実現に寄与することが期待される。

3. 公開授業等について

公開授業やワークショップは、教員間で教授法を学び合う機会、学部のカリキュラム改善等について検討する機会として年1回以上設定・実施してください。

なお、実施にあたっては、出席者の記録をお願いいたします。出席者記録の提出は不要ですが、年間報告書にて、出席人数の記載をお願いいたします。

なお、出席者記録は、提出をお願いする場合がありますので、保管しておいてください。

(1) 公開授業・ワークショップ：

※公開授業と公開授業に関するワークショップが対象

(2) その他研修会等：

※(1)以外の学部FDとして実施する研修会が対象（人権研修会を除く）

・実施日時・場所：2月～3月に京都産業大学において（対面またはオンライン実施）

・実施内容：新年度に向けて以下の授業の担当者会議を実施予定である

- ① 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムリテラシーレベル担当者会議（授業運営、意見交換、自己点検評価等）
- ② 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム応用基礎レベル担当者会議（授業運営、意見交換、自己点検評価等）

※この内容は本学におけるFD活動の一環として、本学HPに掲載します。